

台東区議会議員



つなぐプロジェクト
～すべては区民のためだけに～

台東区議会レポート



早川太郎



令和4年第一回臨時会&第一回定例会 報告 Vol.42 <http://hayakawa-taro.com/> 随時ブログ更新中!



コロナ克服のための経済対策として**住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金**(1世帯当たり10万円)を早期に給付するために、1月25日に開会された第一回臨時会において、**約35億8千万円**の令和3年度一般会計補正予算(第9回)を可決しました。

また、2月9日から48日間にわたって開会された第一回定例会では、令和4年度一般会計予算を含む区長提出23議案及び議員提出1議案を可決し、3月28日に閉会しました。

3月22日には、私 早川太郎は予算特別委員会において総括質問を行い、「**今後の行財政運営**」や「**児童発達支援の充実**」「**学校における働き方改革**」について、区長・教育長に提案・質問を行いました。

すべての世代の未来のために、台東区の未来のために。今後とも区民の皆様の声をいただきながら、台東区政改革に全力で取り組んでいく決意です。ご理解とご協力をお願いいたします。

令和3年度一般会計補正予算(第10回)成立

今定例会では、約37億9千万円の一般会計補正予算(第10回)の他、2つの特別会計補正予算が成立しました。

第10回補正予算には、歳入で、**特別区民税約14億3千万円**や**特別区交付金約46億4千万円**の増収分などが計上され、歳出では、**永寿総合病院へのコロナ対策強化**として高度治療室増床・陰圧化などの整備支援経費や、**転出転入手続のワンストップ化**に向けたシステム改修費用、コロナの影響などで利用料が減収となったことによる指定管理料の増額分や、事業の中止や延期等になったことによる経費の減額分が計上されました。結果として**約33億円の基金の取り崩し**と**約25億円の区債の発行を取りやめ**、**基金約66億円を積み増**しています。

将来にわたって区政運営をしっかりと行っていくために、歳入不足や景気の変動などに備え、基金を積み立てていくことは重要であり、この補正予算は必要な措置だと考え、賛成しました。

令和4年度一般会計予算(1059億円)成立

今定例会では、令和4年度の予算案(一般会計と5つの特別会計)総額約1525億円が、予算特別委員会での5日間の費目別質疑や、区長への総括質問の審議を経て、3月28日の本会議にて成立しました。

令和4年度一般会計予算は、特別区民税や特別区交付金が前年度に比べて増額となっていますが、「国などの**給付金や協力金は課税対象**となっていることや、**それらによって一定程度雇用が守られている**ことなどにより、区の歳入が保たれているのではないかと、「**企業や個人の転出超過**が今後どう進んでいくか」など**歳入における懸念は多数あります**。また、新型コロナウイルスの影響で生じた課題への対応やポストコロナへの対応など、多額の費用が必要で、区財政は、**予断を許さない財政状況から抜け出せたわけではありません**。

こうした財政見通しの中では、中長期的な視点に立ち、基金や起債などの活用を含め、**持続可能な財政運営を行っていかざるを得ません**。また、感染拡大に伴って顕在化した課題や、社会経済状況の変化による新たな行政ニーズなどに着実に対応し、**ポストコロナを見据えた対策もスタートすべきです**。更に、**税収が維持されている現況では、将来の区政運営を見据えて、インフラ整備や、CO2削減対策、効率的効果的な行政運営への対応**など、できる限り進めておくべきであり。令和4年度予算案は、これら要素をバランスよく考慮し対応した予算となっていること。また、「つなぐプロジェクト」が政策要望などで提案した「**BPR等による業務改善、オープンデータやファシリティマネジメントの推進、オンライン会議の環境整備、デジタルデバイス対応などの情報化推進**」や、**区有施設の省電力型照明整備、企業へのキャッシュレス化推進、養育費の受け取り支援、保育園等へのデジタル化**なども予算にしっかりと反映されていることなど、評価できる点も多く、予算案に賛成しました。

今後とも、すべての世代の人たちが住み続けたいと思える台東区をめざし、行政サービスのより一層の充実をはかるべく、全力を尽くしてまいります。